棟梁（とうりょう）。
それは、すべての職人に指示をだす
家建てにおける総責任者というポジション。

無垢一本物の木にこだわり、
妥協を許さない永見工務店の家づくりにおいて
最重要となる仕事。

数十年という歳月を経ても色あせる事のない
自分の「作品」を我々と共に造り上げよう。

家づくりは、作品づくり。

CONTENTS

棟梁の仕事
技術・知識の伝承
Backup Program
棟梁になるために
大工職の現状
大工が挑むべきこと
大手メーカーと対等に競争する

棟梁の仕事

新築の住宅を主体に、住宅建築全般に携わります。
昨今の新築住宅は集成材や合板を多用した、スピードと合理性を追求した家造りがほとんどですが、当社は無垢一本物の木にこだわり、集成材、合板を使わない家建てをしております。

古き良きものは残し、新しい断熱構造や、減震・制震構造、省エネルギー関係等、新しき良き物は最先端のシステムを導入しております。

昨今の現場では大工職人はスピードを追求した“組み立て”作業が主体となっておりますが、当社においての「大工」は限りなく「建築家大工」としてのポジションになります。
「棟梁」は総責任者として、木工事・電気・ガス・水道・屋根・外壁等、すべての職人に指示を出すという、まさに昔ながらの「棟梁」です。

現場はもちろん、デザイナーや、施主様との打ち合わせも棟梁が主体となり、家一棟を自身の「作品」として取り組んでいただきます。

技術・知識の伝承

一流の「棟梁」として求められるもの。
それは、大工職における技術の高さはもちろん、
設計、デザイン、建築知識、建築雑学が必要になります。

当社は、棟梁の想いをすぐに形に出来るよう、
相応の資料、書籍、パソコン（ＣＡＤ，その他プレゼン用）を
いつでも自由に利用できる環境を整えています。

加えて、若手大工育成の為、熟練社員による技術講習日、
建築知識講習日を設け、技術や知識の伝承、向上に務めています。

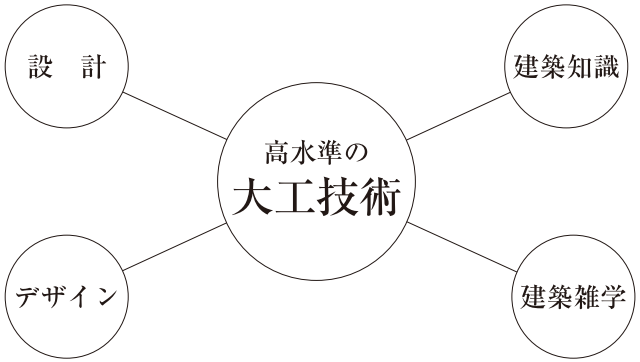
Backup Program

技術講習

技術講習においては、毎月末を講習日と定め、今その者に必要とされる技術を、現場や加工場にて熟練社員がマンツーマンで指導します。初歩的なことから中級レベルに至るまで、その時々に必要な技術を学べるため、技術の向上へ非常に役立ちます。

建築知識講習

建築知識講習においては、現場では学べない建築知識や、建築雑学を教えます。この講習は、主に現場責任者候補、または責任者を目指す者を対象としています。
現場責任者の立場は厳格でなくてはなりません。
責任者としての建築知識・建築雑学の習得に加え、社会人としての人格形成に至るまで、主に代表の永見が直接指導します。



当社においての棟梁は経験や知識のみでは成立しません。
施主様の大切なお金を預かれる「人格者」でなければならないのです。

棟梁になるために。

平均４～７年程度（入社前経験値により変わります。）の下手間期間を経て、技術、知識、社会人としての人格等、会社が認めた者に対しては、棟梁への準備に入っていただきます。

１～３棟目までは補佐として熟練棟梁がサポートに入りますが、時期を見て、一人前の棟梁として現場を任せます。

完全に棟梁として家建てができるようになれば、その後は、一棟梁として自身が手掛けた「作品」を完成見学会などでお客様へアピールし、新規の施主様との交渉にも参加していただきます。

自身の「作品」を施主様へアピールすることは、自身の仕事への満足度が非常に高くなり、やりがいにも繋がります。

大工職の現状

現在、建築現場での大工職人の地位は下がる一方です。
それはなぜか。
大工職の多くは「下請け、孫請け」の職業になってしまったからです。
大手、中堅ハウスメーカーや地元の工務店で、大工を社員として抱えている元請け会社が何社あるでしょう？
よく聞く地元の建築会社でも営業系、デザイナー系、設計事務所系の会社が非常に多く、大工が主体の建築会社は希少となっています。

大工の下請け業のネーミングは「一人親方」と呼ばれています。
今でいう「フリーランス」です。
「一人親方」は、家一棟を一式の金額で請け負います。一棟においての金額なので早く終わらせればその分報酬が多くなります。

しっかりとした仕事ができるだけの費用を貰えるのであれば問題ありませんが、通常生活できるギリギリの金額となります。

現場の大工たちは上級仕事をしようにも、することが許されず、スピードと合理性のみを追求するようになり、雇う側もそれを求めました。

一見、「一人親方制度」は合理的に見えますが、満足のいく仕事が出来ない環境を作り上げ、大工の地位をひたすらおとしめる要因となっています。

そして残った大工仕事が「組み立て作業」。
これが、現在の大工の現状なのです。

※元請けとは、お客様から直接仕事の依頼を受ける会社です。
　下請けとは、元請けから仕事を受けます。

大工が挑むべきこと

もともと大工というのは家造りのトップ「元請け」でした。
それがいつの間にか、ハウスメーカーや営業会社、デザイン事務所、設計事務所、
に主要なポジションはすべて奪われてしまい、残った仕事が「組み立て作業」です。

現在の大工の実態は、プレカットでの加工済み木材を組み立て、構造用合板をエア
ガンで止め、既製品のドアや窓枠をビスで組み立てはめていく、、、。
組み立て作業です。

現場では考えることはありません。単純作業ばかりです。
ひたすらスピードが求められます。
創意工夫はありません。考えている時間はありません。考える暇があったら動かな
ければなりません。
今の現場は、「単純作業をマニュアル化し、いかに考えさせないか」を追求しています。

それでいいのでしょうか？それが本来の大工の仕事なのでしょうか？

では、私たちは何をすればよいのか、簡単です。
しっかりと「考え」奪われた仕事を取り戻すのです！
家全てを統括出来る大工になればよいのです。

電気・ガス・水道工事から、設計デザインまで全て学び、力をつけ、そうそうたる
メーカーとの競争に勝ち、自分の作品として家を建てるのです。

永見工務店の棟梁は、日々それを実行しております。

大手メーカーと対等に競争する

棟梁は施主様との打ち合わせに参加し、施主様の希望をうかがい、それを建てる！
棟梁は自分の意志で現場を統括し、自分の感性と技術を積極的に発揮します。

この激しい競争の中で営業マンがいないのにどうやって仕事を確保するのか？
そんなに考え込むことではありません。私達大工が本気で建てた家であれば、
自然にお客様から依頼が来ます。現実として当社はそうやってまいりました。
そうそうたる、大手メーカーと対等に競争することは大変ですが、技術を持った
大工たちが本気で挑めば必ず勝てると信じています。

大工人数		16 人
設計コーディネーター		4 人
有資格者数（大工）	1 級建築士	1 人
	2 級建築士	4 人
	1 級技能士	1 人
	2 級技能士	1 人

新築一戸建て住宅：年間平均 20 棟竣工
株式会社　永見工務店